

伝える！ つなげる！ ゴースマイル！



小宮の丘

教育目標

学校 HP : <http://hachioji-school.ed.jp/komye/>

〇かしこい子 〇たくましい子 〇ゆたかな子 〇みんなと仲よく生きぬく子

令和7年度 学校だより
八王子市立小宮小学校
発行責任者
校長 山北 雅史
令和7年4月7日発行
第1号

春風に押されて

校長 山北 雅史

胸いっぱい春の空気を吸い込んで深呼吸します。春休みの一日、気持ちの良い晴天です。柔らかな風に桜の花びらが舞っています。卒業式の日には開花した桜は、一気に満開となり、季節の巡りを告げています。まだ始業式前ですが、職員室のベランダから見える校庭は、暖かい日差しに包まれて新しい年度のスタートを告げているようです。令和7年度が始まります。学校は新年度が始まった瞬間から全員があわただしく動き始めます。新しく迎えた教職員ともすでに打ち解けたように会話し、新年度準備を楽しそうに進めている校内の様子に、私はこの上ないうれしさを感じています。自分も「年度が変わったことだし、始業式前に校長室を少し片づけようかな」と思い立ち、どこから始めようかなと見回したところで、壁に貼られている色紙に目がとまりました。いつもは全く気にしないでいたものでした。

そこには「子ども叱るな来た道だもの、年寄り笑うな行く道だもの」と達筆で書かれています。調べてみると、すでに亡くなられた作家の永六輔さんが著書「大往生」で紹介して広まった言葉で、もともとは浄土真宗の熱心な信者の言葉とのこと。茶色く日に焼けた小さな色紙は、額に入れられているのに斜めにずれており、年季の入り具合から、かなり前からここに貼られていたのだろうと思われま。校長室に貼られた歴代13人の先輩校長先生たちの顔を眺めながら、誰が貼ったのかなあと考えます。永六輔さんの「大往生」は1994年の発行ですので、30年ほど前にその頃の校長先生が貼られたのかなあと想像したりします。いずれにしても、色紙の言葉は「なるほど、その通り」です。特に年齢を重ねてきたこの頃は、若い先生たちの軽やかなフットワークをうらやましく眺めながら「昔は自分だってそうだったのに・・・」「遠足で必死についていく姿を笑わないでね」と思ってしまう毎日です。ただ、時に子どもは叱ってもよいと思います。怒ることと叱ることは違います。正しく叱ることによって正しく道を歩めるのだと思います。もちろん「来た道」だからこそ、決して理不尽な叱り方をしてはいけな。私。私も恩師に、先輩に、両親に我が身を思いながらたくさん叱ってもらってきたことが、今の自分の財産になっていることを感じています。

さらにこの言葉には続きがあるようです。「来た道行く道二人旅、これから通る今日の道、通り直しのできぬ道」と続くそうです。「今日の道は通り直しのできぬ道」だからこそ、今を精一杯に過ごしていかなければならないのだと思います。小宮小学校51年目の春、半世紀の折り返し点に立ち、先輩方の思いを引き継ぎながら教職員一同それぞれが持ち味を生かして、力を合わせて頑張っていこうと思います。

穏やかな春風に背中を押してもらいながらそんなことを思いました。

